

第 2 回「新県民体育館を核としたまちづくり」ワークショップ 参加者からの意見等

～災害発生時に想定される状況と新県民体育館に必要な「防災機能」について～

地震発生後に想定される状況

(1) 設備の状況

- ・スマホなどの通信機器が使えない
- ・館内アナウンスが聞こえない
- ・機材等の落下
- ・電気、水道が止まる
- ・地震の被害により館内の入口が開かなくなる（開きずらくなる）
- ・空調設備の故障により温度調節が不可能となる
- ・津波により流れてきた資材の撤去
- ・生活に必要なものが不足する（食料、トイレ、お風呂、着替えなど）
- ・不安や慣れない環境からストレスを感じる（人目が気になるなど）
- ・帰りたくても帰れない帰宅困難者が発生
- ・感染症や熱中症の発症者が増える
- ・避難所内でのトラブルが発生

(2) 施設内の状況

- ・想定外の人数が集まり避難所がキャパオーバー
- ・避難者の一斉避難によりパニック状態（近隣住民、体の不自由な方も避難）
- ・館内の避難経路が分からず混乱が起きる
- ・館内にけが人が多数避難
- ・最新情報や正しい情報がわからない（デマ情報による混乱）
- ・大切な人の安否や被害状況がわからない

発災後に想定される状況から新県民体育館に必要な機能や設備

(1) 避難するための設備

- ・土地に馴染みのない人でも新県民体育館へ避難できる工夫（外国語対応やイラストを利用した標識、外から避難所とわかるよう建物の色を変える）
- ・避難者がそのまま屋上避難できるような外階段の設置
- ・災害時に避難できる入口を複数箇所に設置
- ・コンサート等での利用時、各階の利用者がどのルートで避難するかを定め、避難ルートは誘導灯などを利用して色分けし避難を促す
- ・避難経路をバリアフリー化

(2) 避難所運営のための設備

①安心・安全に過ごすために

- ・災害に対応した設備（自家発電設備、太陽光発電、耐震化、雨水を貯める貯水設備、空調設備、エレベーター、ラジオ）
- ・収容可能人数分以上の飲食料の備蓄
- ・冬場の防寒対策やストレスの緩和のため温泉設備を設置し、平常時も利用可能なものにする
- ・ジムエリアのバイクを利用して発電できる設備
- ・避難場所の拡大

②外部の情報収集や連絡手段を確保するために

- ・大型ビジョンを設置し、必要な情報や現在の状況を随時放映
- ・ネットが混線するため、公衆電話や大人数の利用が可能な WiFi 設備
- ・携帯電話の充電が可能なコンセント、ケーブルを設置したブース
- ・避難経路や周辺の被害状況を確認するためドローンを利用

③プライバシーを守るために

- ・観客席がベッドになり、家族で利用可能なほどのスペースへ合体が可能なものを設置
- ・パーテーションや仕切りを設置
- ・外国人と日本人の避難場所を分ける

④ストレスを緩和するために

- ・ストレス緩和のため、映画や TV が放映可能なスクリーンの設置
- ・移動式ランドリーやコインランドリーを設置（平常時でも利用可）

⑤緊急事態に対応するために

- ・事前に、医務室、ペット室、子供の遊び場、着替え室などの諸室を決めておく
- ・隔離部屋を設置し、感染症や急病の患者への対応（換気しやすい空間づくり）
- ・外部機関とオンラインでの通信が可能な設備（遠隔でカウンセリング・診察など）
- ・緊急性の高い患者をすぐに搬送するためにヘリポートの設置、周辺が浸水した際に搬送するための自動ボートの設置

⑥円滑な避難所運営のために

- ・人間型ロボットを設置し、避難所案内や必要な情報の提供
- ・館内混乱を防ぐため、館内アナウンスやエリアメールを利用した一斉連絡
- ・避難所運営をマニュアル化し、優先事項などを決めておく
- ・物資の配布場所や、必要となる設備の設置場所などがわかるマップの設置